

# 総合教育センターだより

平成24年3月発行

山梨県総合教育センター

平成24年度に向け、センターは今！

## 総合教育センターは、今こんな準備をしています

総合教育センター所長 清水 澄

山梨県総合教育センターでは、平成24年度に向けてさまざまな準備を行っています。

第一に、本センターの「出前研修」をより利用しやすくするため、年度当初に、担当講師と研修内容の「メニュー」と実施可能日についてお知らせする準備を進めています。

第二に、平成24年度の研究大会を1月下旬に設定します。お陰様で今年度の研究大会も延べ人数で1,159名の参加者を得て、盛況な大会とすることができました。課題は、参加された先生方が研究成果や新たな情報を各学校に持ち帰り、次年度の教育計画や実践等に十分に反映できるようにすることです。このため、各学校で2月には、県内外の研究報告等の検証や分析、計画作りなどに十分な時間を充てて欲しいと考え、その準備を進めています。

第三に、本センターは、教育関係の書籍を数多く保有しています。これらの書籍を、kai.ed.jpのメールアドレスに登録した方々には、貸し出しをする準備を進めています。さらに、この1月からスタートしたメールマガジンでも、県内外の教育情報をいち早くお届けできるよう取り組んでいます。

また、6月19日（火）には、\*ハイパー・メリトクラシーで有名になった、東京大学大学院教育学研究科教授の本田由紀先生をお招きし、本センターに於いて特別研修会を開催することになりました。これらのほか、既存の研修についても一層の充実を図るための改良や工夫、中堅研修などの新たな研修の実施に向けた準備にと、所員たちは、まだ固いままの桃の花の蕾を眺めながら、忙しい日々を過ごしています。

\*（ポスト近代型能力）＝コミュニケーション能力や問題解決能力など

## 研究発表大会から見えてきたもの

### 研究発表大会に参加し

ていただいた教職員及び教育関係者に心より感謝申し上げます。

午前中の特別講演・基調提案を受けて、研修主事・こすもす教室主幹・一般留学生による研究成果を発表しました。いずれの研究も「学校教育を支援する」ことを目的としており、学習指導要領や本県の教育施策等を踏まえたものです。

それらの発表と参加していただいた皆様のご意見から、新学習指導要領で重視されている「言語活動」や「知識活用能力」、学校現場にとって大きな課題である「不登校問題」、今後ますます重要度を増すと思われる特別支援教育における「自立活動」、情報教育・教科指導における情報通信技術の活用、校務の情報化からなる「教育の情報化」、「教育課程実施状況調査」に基づく授業改善のポイントなど、センターの研究内容と学校現場が求めているものがほぼ一致していることが見えてきました。

ご意見の中には「授業を改善して、生徒の学力を向上させるための方法やヒントを得られた。」と、今回の発表を学校での実践に生かしたいとの声が寄せられています。しかし、「発表部分をいかに絞り込むか、その後の意見交換、共有の部分を時間的に、方法的にどうするか。その点を改善しないと自ら来たい発表会にならないし、お互いに学べない。」との意見もありました。これは、本センターが実施する研修会の運営の改善に参考となる意見でした。

今後の課題としては研究内容を吟味し、学校現場で実践しやすいものに改善していくことです。現在、この観点から次年度の研究の見直し及び研究発表大会の実施の在り方について検討を進めています。参加していただいた皆様から寄せられた意見も参考にしながら、学校教育を支援するための研究を充実させていきます。

（研究開発部）



## 教育指導部

「教職とは、児童生徒一人一人のよさや可能性を十分に伸ばし、より豊かな人間性をはぐくむ仕事である。教員はその重責を果たすため、常に教職の厳しさを自覚し、謙虚に自分自身を反省し、不断の教育実践と自己啓発に努め、専門職にふさわしい実力をもつよう務めなければならない。」これは、初任者研修の手引の一節です。言うまでもなく我々教職員は、最新の情報もち、喫緊の教育課題を正しくとらえ、常に指導法の改善に取り組み、児童生徒のためによりよい授業作りなどを追及していかなければなりません。

今年度、教科指導や教育課題について資質能力の向上の一助となるよう、総合教育センターで用意した174の研修を、延べ12,000人余りが受講しました。平成24年度の研修会の企画では、これまで以上に総合教育センターの機能を発揮できるよう、全研修会を対象に精選と充実に取り組みしました。結果、全研修会の中身の見直しを行い、144研修にまで精



選を図ることができました。また、研修会の運営方法や講師の見直しを行い、キャリアステージに応じた研修会づくりにも着手できました。同時に、多くの先生方にセンターHPにある各研修会実施要項を見ていただけるよう、工夫も行いました。来年度も多くの先生方に総合教育センターの研修会を活用していただき、自ら学ぶ者として自己研鑽に努めていただきたいと思います。

## 研究開発部

今年度も研究開発部では、学校の現状に即した今日的教育課題を把握し、課題解決のための調査・研究及び指導計画・指導方法の研究・開発を推進してきました。

来年度の研究は、各校種に応じた教育活動に資する「共通の基盤としての指針」を示すために研究体制を一新し、複数年研究を視野に入れたグループ研究を基本に取り組みます。研究課題は今年度県内各学校を対象に行った児童生徒の実態調査や各学校の研究主題調査等を参考に素案を作りました。新体制となった4月から早速、喫緊の教育課題の解決に資する先行的な研究を進めていきます。

学びの本質に通じる研修会として、今年度も開催しました特別研修会を来年度は6月19日に開催します。特定の校種や教科に偏らない実践的な研修を目指して、講師には東京大学大学院教授の本田由紀先生をお招きし、「学校は子どもたちに何を提供していくのか」(仮)といったテーマで講演をしていただきます。多くの先生方にとって有意義な研修会になると思います

ので、是非参加していただきたいと思います。

また、本センターがこれまでに収集してきた図書や研究資料を県内教育関係者に活用していただけるように閲覧・貸出しできる体制を整え、普及・広報を進めています。このほかにも引き続き、教育研究活動の拠点及び情報発信源として、研究の成果や適時な教育情報の発信、学校や先生方に対して相談・支援等を行い、県内学校教育の発展に力を尽くして参ります。



## 情報教育部

～山梨の「教育の情報化」の推進に向けて～

昨年4月に文部科学省は、ICT活用や情報活用能力、教員への支援など、「教育の情報化」の未来像を示した『教育の情報化ビジョン～21世紀にふさわしい学びと学校の創造をめざして～』を発表しました。県内の学校では電子黒板や大型デジタルTV、プロジェクターなどのICT機器の整備が進んでおり、これらの機器を効果的に活用した教育実践例も報告されています。各学校の実践事例やデジタル教材等を含め「教育の情報化」に関する資料をセンターのホームページに掲載するなど、先生方が自由にアクセスし活用できる環境を整備していきます。

これからのICT活用研修は、操作方法の研修から、授業の改善と向上につながる研修や授業づくりや授業での活用ノウハウを身につけるための研修へ、軸足を移していかなければなりません。センターで行う情報教育研修会も、現場のニーズや学校を取り巻く環境を考慮しながら、今までの研修内容や研修方法

の見直しを行い、改善し体系化しました。

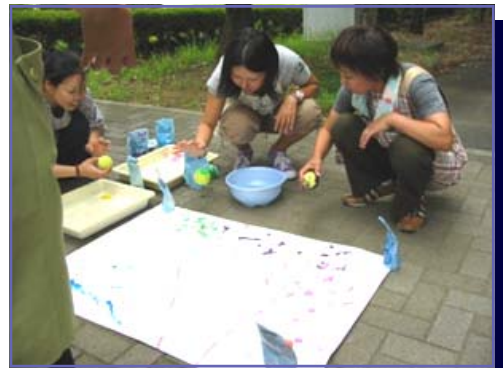
また今年の2月に、各研修室のコンピュータが全てWindows7の最新の機種に更新されました。プロジェクターやプリンター等の周辺機器も最新のものに更新され、電子黒板等のICT機器も整備されました。

「教育の情報化」が目指す、子どもたちの情報活用能力の育成とICTを効果的に活用した「わかる授業」の実践のために、センターの環境や研修会を十分活用してください。



## 相談支援部

相談支援部では、これまで様々な課題を抱える幼児児童生徒が健やかに成長できるよう、研修・研究・相談を通して本人、保護者及び学校を支援してきました。来年度も引き続き、より効果的な支援ができるよう努めてまいりますので、ぜひ研修会への積極的参加を含めて相談支援部をご活用ください。以下に相談支部各担当業務の概要をお知らせいたします。



### 【教育相談】

4名のスタッフで、いじめや不登校等の予防に視点を置き、学校現場の課題解決に生かせる研修・研究を行い学校に還元しています。また、いじめや不登校等の学校教育問題に関して、児童生徒、保護者及び教職員を対象とした面接相談や電話相談、学校に出向いての研修会を実施しています。

(ア)面接相談（平日9：00～17：00、☎055-263-3711 ＊予約制）

(イ)電話相談（365日24時間体制、電話相談員が対応、☎055-263-3711）

### 【特別支援教育】

4名のスタッフで、障害のある児童生徒の教育の充実を目指し、幼児児童生徒、保護者及び教職員を面接相談、電話相談、訪問相談を通して支援しています。また、特別支援教育の推進、充実のための研修・研究を行い学校に還元しています。

(ア)面接相談、訪問相談（平日9：00～17：00、☎055-263-4606 ＊予約制）

(イ)電話相談（平日9：00～17：00、☎055-263-4606）

・・・P4に続く

